

## 【熊本県賞】

僕ができること

熊本県 熊本県立玉名高等学校附属中学校

2年

上田 うえだ 一心 いっしん

「水は命だけん、大切にせなん。」

これは、熊本県の北部に位置する緑豊かな山々に囲まれた南関という町に住んでいた僕の曾じいちゃんがよく言っていた言葉である。この町土は約半分が山林で、四分の一が農地の緑豊かな大自然の町だ。

「南関の水はうまかぞお。」

これもまた、曾じいちゃんがよく言っていた言葉だ。曾じいちゃんはいつも南関の水を自慢していた。蛇口から出る水は、とても透き通っていて冷たくて、飲んでみると、とても甘い気がする。僕も曾じいちゃん家の水が好きだ。

しかし、先日、僕は衝撃的な記事を見た。そこには「二〇五〇年には、日本は深刻な水不足に見舞われる」と予測されていた。僕は「日本は、海に囲まれていて川も山も沢山ある、雨も降るし、水不足とはとても無縁な国だろう。」と思っていた。「日本はどうなっていくのだろう。」「南関のおいしい水は大丈夫なのか。」と不安になった。僕はたまたらず水について調べた。

僕たちが毎日使う水の主な源は川の水であり、その大もとは空から降った雨水だ。地上に降った雨は川となり地下水となったりして海に戻り、海の水が大気中に蒸発し、雲を作って雨を降らせる。僕たちはこの水の循環の中で、主に川からの水を利用して生活している。ただ、川の水には、人間の体に有害な物質やウイルスや菌が含まれているため、浄水処理を行って安全でおいしい水になる。しかし、日本は降水量は多いものの実際に使える水は少ないらしい。

水不足の主な原因は、人口増加や産業発達による「水の使用量の増加」地球温暖化が引き起こす気候の変動が「水利用を非効率にしていること」人間によって「水源が破壊、汚染されていること」と言われている。

近い将来、水不足にならないためにも、僕たちが今できること、心が

けてしなければいけないことが必ずあると思う。「水の使用量を減らし節水すること」日本人は生活用水だけで、一日に一人当たり三百リットル近くの多くの水を使用しているとのことだ。水の流しっぱなしはしないこと。毎日の洗顔や歯磨き、手洗いの際はこまめに水を止めるようにし、「水を効率よく使うこと」川や海などにゴミを捨てない、「水源を守ること」が大切だ。

「水は命だけん、大切にせなん。」

そう教えてくれた曾じいちゃん家の、おいしい水を、僕はこれからもずっと守っていききたいと思っている。